

アグリード株式会社（岐阜県本巣市）

組織の概要

- 12品種の水稻を中心に小麦、大豆、加工用キャベツを生産。経営面積は約130ha（R2年）。
- 平成25年に法人化し、社員は代表も含めR2年現在 6 人。
- 農地中間管理機構を通じた農地集積を積極的に進め、地域の農地を守る担い手としての役割を担う。

生産概要

- 【作付面積】水稻：94ha、小麦：35ha、大豆：13.5ha、加工用キャベツ：0.6ha（R2年）
- 水稻-小麦-大豆の2年3作体系で営農。大豆作はH28から開始し、作付面積は年々増加（H28：5.2ha→R2：13.5ha）。
- 大豆栽培は、ほ場準備と播種作業が重要との考えのもと、「播種半作」をキーワードに、土づくり、排水対策に尽力。また、収量が安定する栽培方法を検証し、現在は全面積で狭畦密植栽培を実施。
- スマート農業機械・ICT等新技術の活用により作業時間の短縮を図るとともに、営農支援システム（KSAS）により農作業記録等をデータ化し法人内で共有することで、生産性の向上と働き方の改善を実現。



＜大豆栽培ほ場の様子＞

取組のポイント

＜需要に応じた大豆の生産＞

- 品種は、加工適性に優れ、実需者からのニーズが高い「フクユタカ」を栽培。
- 近年は、大豆の作柄が不安定であることから、実需者からは安定した品質・量での供給が求められており、弾丸暗渠の施工や、狭畦密植栽培、土壌診断に基づく土づくりの導入を進め、安定供給の実現を目指す。

＜生産性向上に向けた機械、技術の導入＞

- 機能向上した乗用管理機を導入し、農薬散布作業の効率化を図るとともに、ドローンを併用することで省力化を図り、作付面積の拡大を目指す。



＜ドローンによる防除作業＞

＜団地化による効率的な作業の実践＞

- 地域の農地の受け皿として農地中間管理事業により農地を集積。
- 集積に当たっては、農地の受け手との話し合いにより、ほ場の土壌条件や排水条件、作業効率を考慮した団地化を推進。

取組成果

＜大豆生産の面積拡大と単収向上の双方を実現＞

■ 作付面積の拡大

13.5 ha（R2）⇒ 16.9 ha（R4）（25%増）〔R6目標：18.0 ha〕

■ 単収の向上

157kg/10a（R2）⇒ 162kg/10a（R4）（3.5%増）

[本巣市平均単収(H26～R2年度7中5平均):132 kg/10a]

